



【第9回 チーム担任制は保護者協働】

「子供の身なりや持ち物がずいぶん派手です。派手な子がいると、それをうらやましく思う子どもでるので、校則で規制して守らせてください。」

保護者から寄せられたご要望のひとつです。新たに大人がルールを与えて子どもに守らせる。これが、これまでの保護者対応であり、生徒指導だったのかもしれませんが、これを繰り返しては子どもの主体性や当事者意識が育たないのです。これまでの当たり前を問い直す必要があります。

では、どう取りくめばよいのか。これからは保護者対応ではなく、保護者協働です。生徒指導ではなく生徒支援です。協働だから多様な考え方や価値観が入ってきます。支援だから決定は子どもがします。だから、どう取り組むかの答えは、多様なものへと変わっていきます。みんなが当事者になって、最適解をさがすのです。

子どもに自己決定させる視点からは、「お家の人からこんな意見がとどいているけど、みんなどうする？」と子どもに問うことから始められないでしょうか。子どもは大人には想像できないくらい、いろいろな考えを出してくれるはずで、低学年にはまだ早いなんて考えては子どもに失礼です。やってみなければわかりません。対話を重ねて、子どもたちが納得すれば、ルールでしばらなくても自主的に身なりや持ち物がふさわしいものになるのかもしれませんが、先生がルールを決めて子どもに守らせる学校（先生主語）と、子どもが自分たちでふさわしい行動に近づいていく学校（子供主語）。みなさんはどちらの学校にお子様を通わせたいですか。そんな学校になれるのかどうか、これもやってみなければわかりません。保護者との協働が必要です。

チーム担任制は先生が決めたことを子どもが守る先生主語の学校からの決別です。先生と子供、子供と子供、地域と子供、保護者と子供が対話を重ねるのです。大人は子どもたちの気づきを待ち、支えて、子どもが決めていく。まさに「じりつ（自立・自律）」です。そんな子ども主語の学校に向かう手段の一つがチーム担任制です。

※「保護者対応」という言葉を様々な報道で見聞きます。私はこの言葉が好きではありません。「対応」なんて、相手に失礼な感じがします。一宮西部小学校は「保護者協働」で、手を取り合う関係でありたいと願っています。【チーム担任特集全9回は本号で終了です】

【登下校で帽子をかぶる意味はなに？】

毎朝の登校の様子からは、特に高学年に帽子をかぶっていない姿をみつけます。帽子を手を持って歩く姿も多いです。一方で低学年の多くが帽子をかぶっています。

愛知県交通安全協会、県庁防災安全局県民安全課、愛知県警察の3つの機関に交通安全のため、帽子をかぶることが大切という資料があるかを問い合わせました。回答は「帽子や服装を明るい色にすることは大切です。ヘルメットも自転車に乗るときは絶対に必要です。しかし交通安全のために帽子をかぶろうとは特に言っていません。」「熱中症予防には大変有効です。」ということでした。

①交通安全面では明るい色の帽子は有効だが、暗い色のものは有効ではない

②熱中症予防には帽子は有効

ということになります。そうすると、熱中症の心配が少ない今は、明るい色の帽子以外は、かぶるべき理由がなくなります。

でも私は、小学生が登下校で帽子をかぶるべき理由がもう一つあると考えています。それは「小さい子にお手本を示して、みんなで小さい子をけがから守ってあげる」ということです。

低学年の子は登下校の時、よく転びます。けがをして泣きながら学校にくる子もいます。低学年の子は大人とそれほどかわらない大きさの頭でありながら、体は大人の半分以下という大変バランスの悪い体つきをしているから転びやすいのです。転んだ先にコンクリートや鉄の角があって、もう少しで大きなけがに・・・という場面を見ることもあります。このようなケースでは頭の大きなけがを帽子で防げます。いっしょに登校するみんなが、「帽子はこうかぶるよ」と小さい子にお手本を示して、小さい子をけがから守ってくれる「かしこく・やさしく・たくましい」一西小のこどもの姿があると、かっこいいなあと思ったりもします。

令和7年度は4月8日(火)入学式、9日(水)始業式です。4月からは、新入生はヘルメットをかぶって登校を始めます。そんな始業式の日から、みなさんはどうふるまうのか、何のための帽子か、各学級で対話をしてください。みんなで考えて、いろんな考えを認め、一人ひとりが行動するのです。

